学校番号	1013

令和２年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史Ｂ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	高等学校日本史Ｂ　新訂版　（清水書院）						
副教材等	使用しない						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歴史的事象に「なぜ」の視点を持つ。
・わが国の伝統と文化の特色を、歴史の流れと積み重ねの中で考える。
・歴史の考察を通して、現在や未来の日本のありかたを考える。

２　学習の到達目標

・諸資料に親しみ、歴史的考察力を培う。
・わが国の歴史の展開を地理的条件や世界の歴史と関連づけて総合的に考察する。
・一般的な歴史上の基礎事項を身につけたうえで、時間軸に沿って物事を考える思考法を習得する。
・国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と素質を養う。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	わが国の歴史の展開に関する関心と課題意識を高め、意欲的に追求し、日本国民としての責務を果たそうとする。	わが国の歴史の展開から課題を見出し、多面的・多角的に考察しわが国の伝統や文化に対する認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断し、その家庭や結果を適切に表現している。	わが国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。	わが国の歴史の展開についての基本的な事項を、国際環境と関連づけて総合的に理解し、その知識を身につけている。
評価方法	ワークシート 休業中などのレポート ノート 授業中の発言・取り組み状況	定期考査 ワークシート レポート	定期考査 ワークシート ノート	定期考査 小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

学期	単元	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	近世・近代	第４章　幕藩体制の動揺と化政文化 第１章　近世から近代社会へ 第２章　明治維新と立憲国家の成立 第３章　日清・日露戦争と東アジア	○ ○ ○	○ ○ 	 ○ ○ 	 ○ ○	a 幕藩体制が動揺し、日本が近代国家へと移行し発展するまでの大きな歴史変動への関心を高め、意欲的に追究しようとしている。 b 近代国家形成を、幕藩体制のひずみと幕末の開国にはじまる国際社会との関係の中で多面的・多角的に考察し、過程や結果を適切に表現させる。 c 幕末の動乱や明治初期の文明開化などに関して、諸資料を収集し、有用な情報を選択し、読み取ったり図表にまとめたりしている。 d 立憲政治確立の過程と、日清・日露戦争前後の時代のアジア及び欧米諸国との関係を総合的に理解させる。	定期考査 ノート ワークシート 出欠状況 授業態度
二学期	近代	第４章　近代産業の発展と国民生活 第５章　第１次世界大戦と日本の社会 第６章　第２次世界大戦と日本の社会	 ○ ○	 ○ ○	○ 	○ ○ ○	a 大正から昭和戦前期の日本の政治や社会の特色に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。 b 政党政治の成立とその終焉の過程で勃興してくるファシズムの様相を、国際社会の中の日本の立場などと関連づけて、多面的・多角的に考察し、過程や結果を適切に表現している。 c 近代の社会や文化の特色に関する資料や写真等を収集し、有用な情報を選択し、読み取ったり図表にまとめさせる。 d 第１次大戦前後の国際社会の中で日本の政治・経済・社会がどのような影響を受け、いかにして戦時体制が強化されていくかを、国内の社会運動とも関連づけて理解し、その知識を身につけている。	定期考査 ノート ワークシート 出欠状況 授業態度

三学期	現代	第１章　占領下の日本 第２章　日本の独立回復と戦後政治 第３章　経済大国日本への道	○ ○	 ○ ○	 〇 〇	○ ○	a 占領下から戦後の政治や国民生活に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。 b 戦後経済の発展を経済の国際化と関連づけて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c 高度経済成長や現代の社会の特色に関する資料を収集し、有用な情報を選択し、読み取ったり、図表にまとめたりしている。 d わが国の再出発及びその後の政治に関する基本的な事項を、占領政策や国際政治のあり方と関連づけて理解し、その知識を身につけている。	定期考査 ノート ワークシート 出欠状況 授業態度

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。